

令和元年度 第1回 芸北分校存続対策協議会 議事要旨

日 時	令和元年7月2日（火）曜日
場 所	広島県立加計高等学校芸北分校
出席者 (敬称略)	(会長) 池田 庄策, (副会長) 清見 宜正, (委員) 壽老 靖彦, 久茂谷 美保之, 河野 通之, 小田 均, 折田 裕之, 森 大悟 沖川 和宏 広島県教育委員会県立学校改革担当 (主査) 谷村 健二 広島県教育委員会事務局学校経営支援課 (総括指導主事) 増田 隆
議 事	1 開会 2 芸北分校現状報告 3 関係機関報告他 (1) 北広島町 (2) 北広島町教育委員会 (3) 連携中学校 (芸北中学校) (4) 芸北分校同窓会・後援会 4 協議 5 閉会
議事概要	1 芸北分校現状報告 (1) 令和元年度在校生及び雄学館及び下宿生徒について (2) 連携中学校志願状況及び今後の取組について (3) 芸北分校における活性化対策について 2 関係機関報告 (1) 北広島町: 北広島町総合戦略での芸北地域は「教育」を重きにおいて地域づくりをしていく。女子下宿は、今年度中に完成予定。 (2) 町教育委員会: 定住施策のひとつとして高校支援は要の事業である。予算化できるよう総務課及び企画課等の関係各課に働きかける。 (3) 連携中学校: 分校生の頑張る姿に、中学生が刺激を受けている。現在の進路希望は、14名中9名が芸北分校受検希望。 (4) 同窓会・後援会・PTA: 芸北分校の存在によって、学校と地域の連携や新たなつながりが生まれ、地域も喜んでいる。創立70周年を機に、組織を活性化することが、母校及び地域の活性化につながっていく。 3 協議 ○芸北中学校の生徒数が減少していく中、80名以上の生徒数を確保しなければならない。中高連携だけでなく、様々な取組を行い、生徒数の確保に努める。(複線化, 魅力化, どんぐり財団とのコラボ等) ○北広島町, 学校, 地域住民が一体となった地域づくり (グランドデザイン) を作成し, 地域住民

や行政に事業化できるよう働きかける。

○なぜ、1学級規模の学校の統廃合等の対象生徒数が80名なのか。分校のサイズで1教室に40名は入らない。30名が適性でないか。

○募集等に係る資金確保（ふるさと納税等の活用）

○7・8月中に県南部の中学校を訪問し、オープンスクール等の学校PRを行う。

○学校から地域住民に分校の現状を伝え、学校や地域の存続について理解を深め、学校・地域・行政が一体となった取組ができるよう働き支援体制の確立に努める。